

読書ノート

子どもも来てくれ、うれしく、涙があふく。中々まのユキさんママになったのねえ。今ソレと二人の

- 海の島 アニカ・ドール作
- 睡蓮の池 長木晃子訳
- 海の深み 新宿書房

「ニルスの不しかな旅」に感動して訳者にも強く心ひかれ訳本を何冊か読んだ。スウェーデンの児童文学を沢山訳している。この3冊は、「ステフィとネッリの物語」の3部作。大ニ次大戦前後、子どもたちはどう生きてきたか、夢中で読んだ。ウイーで豊かな家庭に暮らしていたステフィとネッリ姉妹は、エタヤ人であるかゆえに両親と別れ、生きのびるために500人の子どもたちとスウェーデンにわたり小島な島の里親に2人別々に引けとられる。

作者は「戦争と人種差別は、とりわけ幼い子どもたちを襲い傷つける邪悪でおそろいもの」と訴え深く共感する。簡潔で生きいきした文にステフィたちと共に生きてきたようなリアル感かわいてくる。作者はニルス・ホルケン賞など多数受賞。ほか「10歳12歳の秋」もよかった。「マイカーいた夏」マッツ・ウォール作などスウェーデンのよい本に出会った。

● あの日からの建築 伊東豊雄 集英社新書  
大震災のあと、幾度も被災地に通って、通之は通うほど、自分がつくってきた建築は何だったんだろう。誰に向けて何のために作ったのたろうと自問する著者。世界的に高く評価されてきたけれど、自分の仕事に根本から問い直すということ。なかなかできないことだ。常に前進しようとする気迫を感じる。

「愛媛新聞」日曜日のコラム新年度執筆者5人の中にマヤも紹介されていた日、「人々の友人から電話をもらってうれい。



沖縄旅行

2012 12月12日～14日

夕パニの関空到着に合わせて、みんなで関空一那覇(航空券、ホテル2泊、レンタカー、カンリン3000円券、水族館入場券で25000円)の格安パワフ旅行に。

12/12日  
まず、平和祈念公園へ

夕暮れのだれもない広い公園。沖縄戦で亡くなった24万を超える人々の名が刻まれた平和の礎(いしじ)に深く頭をたれる。波静かな太平洋に向かっている。

12/13  
カヤの希望で  
沖縄民芸家元の本談話会  
焼物(やちもん)工房めぐり  
よここからまた遠く  
若い田村天寿の工房へ  
二人の人柄と作品に  
ひかれ私も中皿と茶巾を



夕パニの希望で  
遠い遠いコヒー農園へ  
台風で農園は壊滅していた  
高し爺の  
立派なニワトリ  
を迎え  
くれた。



ほかにいろいろ  
あじしかなのは  
ソーキそば  
ソーキ汁(豚軟骨)  
フーヤンポル  
車麦と野菜の火炒め物  
トーフヨウ(熟成42日の味)  
2x3cmくらいのもやし  
揚げの先でたのむ



ちゅうらうみ  
美ら海水族館  
ヤンヤコ! ニシキアツコ!  
ジンバエサマよりこの小はな  
生き物にゾクゾク!



ホテル  
日航那覇グランドキャサルの  
バスキング朝食とモチなしの心  
沖縄で出会った人みんなあたたかい気持ちか  
ほこほこ伝わってくる。  
大阪から宮古島に移ったカヤの友だちハチちゃんにも  
合つ島からこの話いろいろ、いいねえ。  
首里城は夜景しか見られず心残り。

けやき通信

2012年12月  
2013年1月  
NO.235

一錦織佳代子一



2013年の初日かわかやの居間にあふれんばかりの光を送ってくれました。思わすカヤと手を合わせる。隣りが火田になり、こんな神々しい年始を迎えることができました。

1/2 母の卒寿祝い

弟、妹家族もそろって16人かわかやに。マヤは帰省です。残念。



1歳10ヵ月の光太郎



日本語をたくさん覚え、会話もたのしい。みんなに積極的に近づいて友だちになる。絵本もたくさん楽しみました。

100歳めかして  
元気でね。



新聞のクロスワードパズル投稿が楽しみ。達筆で毎日日記を書いている。

今も黒い髪。足が不自由なから何でも食べて